



※参考資料

クジラの飲み水 学習ワークシート

一年

組

番 氏名

学習目標…表現や説明の仕方から導入の工夫の仕方に気付き、工夫を生かして書こう。

① 一二つの文章を比べて読みながら、説明や表現の具体的な工夫を見つけよう。

「クジラの飲み水」序論

「海には水が不足している。」と言ったら、ほとんどの人はそんなことがあるわけがないと思うだろう。もちろん海水の大部分は水であるし、海が大きな水の塊であることは確かである。しかし、私たち人間をはじめ、哺乳類に属する動物にとって、飲み水という面からみると、海は砂漠と同じかそれ以上に水が乏しい環境なのだ。

動物の多くは、体重の約六〇〜七〇パーセントが水分であり、人間の場合は、その約五パーセントを失うと危険な状態になってしまう。けれども、私たちは毎日、汗や排せつや呼吸によって約二〇〇〇〜二五〇〇ミリリットルの水分を失っている。そのため、飲み物や食、べ物で毎日水分を補っているわけである。

海は水の塊だが、海水浴をしているときや海で遭難して喉が渴いたときであっても、決して海水を飲んではいけない。陸にすむ哺乳類の体液には、塩分が含まれているが、海水に比べるとその割合ははるかに少ない。体液よりも塩分が多い海水を飲むと、私たちの喉は逆に渴いてしまい、危険なことになる。

クジラは人間と同じ哺乳類であり、先祖は大昔、陸上で生活していたと考えられている。海の中で生きるようになったクジラにとって、飲み水をどのようにして得るかということは、非常に大きな問題である。

それでは、いったいクジラはどのようにして飲み水を得ているのであろうか。

「ペンギンの防寒着」序論

南極のペンギンたちは、真冬にはマイナス六〇度にもなる厳しい寒さの中で暮らしています。人間であれば、ダウンジャケットや厚手のコートなしでは外に出ることさえできない寒さです。

ペンギンたちはどのようにしてこの厳しい寒さをしのいでいるのでしょうか。彼らの体に備わった保温のしくみを探ってみましょう。

② ①で見つけた具体的な工夫を生かして、自作の説明文（序論）を書こう。

〇〇学校 第1学年 国語科 板書計画

1 単元(題材)名「クジラの飲み水」(1/4)

- 2 目標
- ・序論の中から、具体的な説明や表現の工夫を見つけることができる。
  - ・様々な工夫を基に、序論の効果や役割について考え、まとめることができる。
  - ・序論の工夫の仕方について、自分の文章に役立てることができる。

クジラの飲み水 大隅 清治

↓ ホワイトボード

めあて

序論の効果・工夫とは


序論の役割

まとめ

- ・ 中心的な疑問を引き出す。
- ・ 予備知識を説明する。

まとめ

- ・ 表現・数字・例示・関係づけなどの工夫がある。
- ・ 自分が文章を書くときに、表現・数字・例示・関係付けなどを使ってみたい。

めあて  
序論には、どんな効果や工夫があるかをとらえ、自分の文章に生かそう。